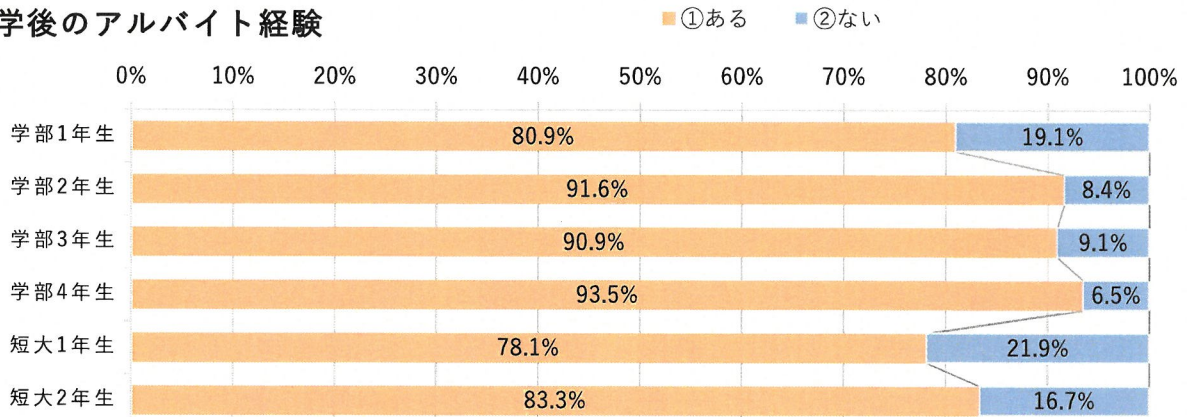


Ⅱ. アルバイト

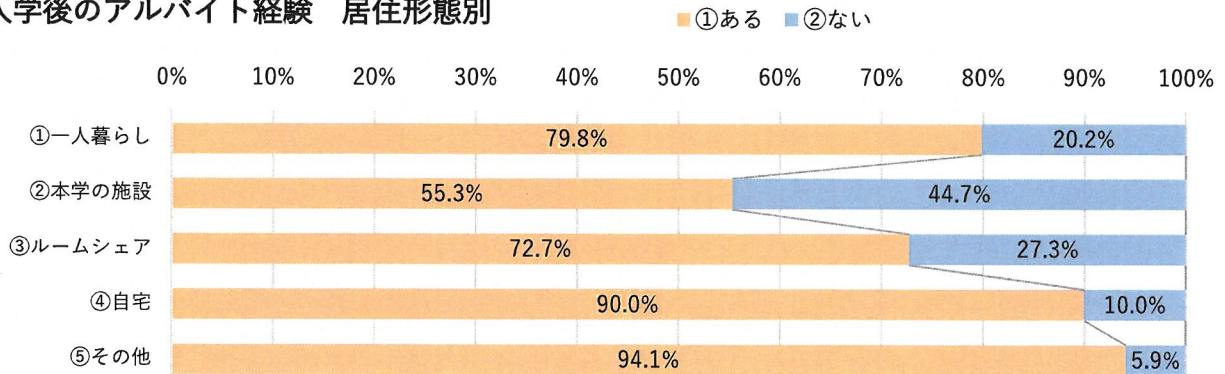
Q 5. 大学入学後のアルバイト経験

アルバイト経験率は、2年生以降で9割を超え、非常に高い水準に達している。短大生にも同様の傾向が見られることから、大学生活に慣れた後から積極的にアルバイトに取り組み始めていることがうかがえる。居住形態（Q1）との関連では、自宅暮らしの学生のアルバイト経験率が90%に達している一方、一人暮らしの学生は80%とやや低くなる。さらに、家族からの経済的援助（Q4）を受けていない学生（約85%が自宅暮らし）のアルバイト経験率は92%であるが、援助額が増えるにつれてその割合は低下し、10万円以上の援助を受けている学生では71%にとどまる。これらの結果から、居住形態や経済的援助が、アルバイトの必要性に一定の影響を及ぼしていることが示唆される。

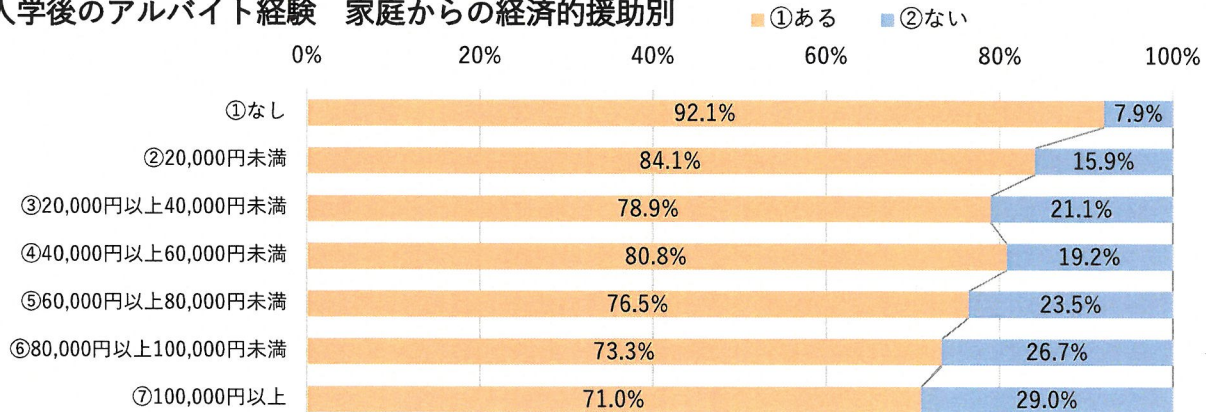
入学後のアルバイト経験



入学後のアルバイト経験 居住形態別



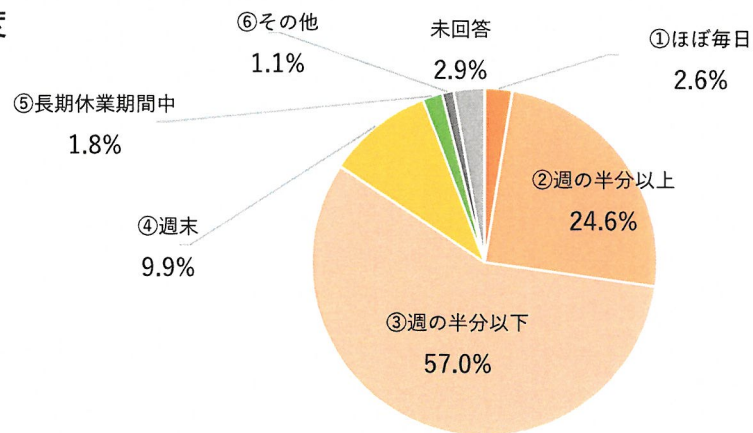
入学後のアルバイト経験 家庭からの経済的援助別



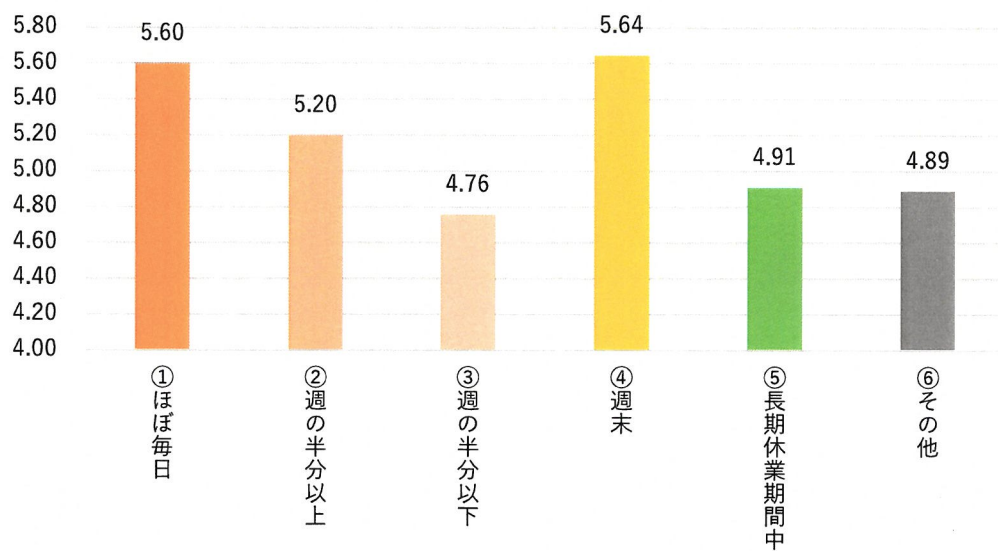
Q 6. アルバイトの頻度

学生のアルバイト頻度は多様であり、学業と生活スタイルの両立を図りながら、各自のニーズに応じた働き方が行われている。6割弱の学生が週の半分以下の頻度でアルバイトに従事し、学業とバランスを取っている一方で、週の半分以上働く学生が約4分の1に達している。少数ではあるが、ほぼ毎日アルバイトをしている学生もあり、学業への影響がないか、さらなる調査が必要である。1日あたりのアルバイト時間（Q17）は、週末限定で5.6時間とやや長くなるが、それ以外の頻度では約5時間となっている。また、課外活動への参加の有無（Q11）とアルバイト頻度の間には、相関関係が認められなかった。

アルバイトの頻度



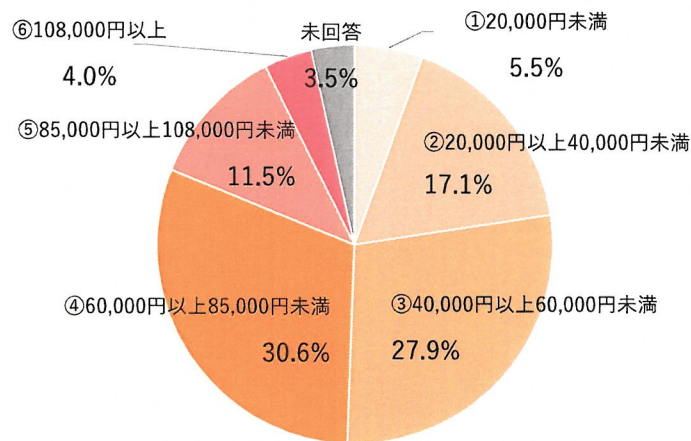
アルバイトの頻度 1日あたりのアルバイト時間



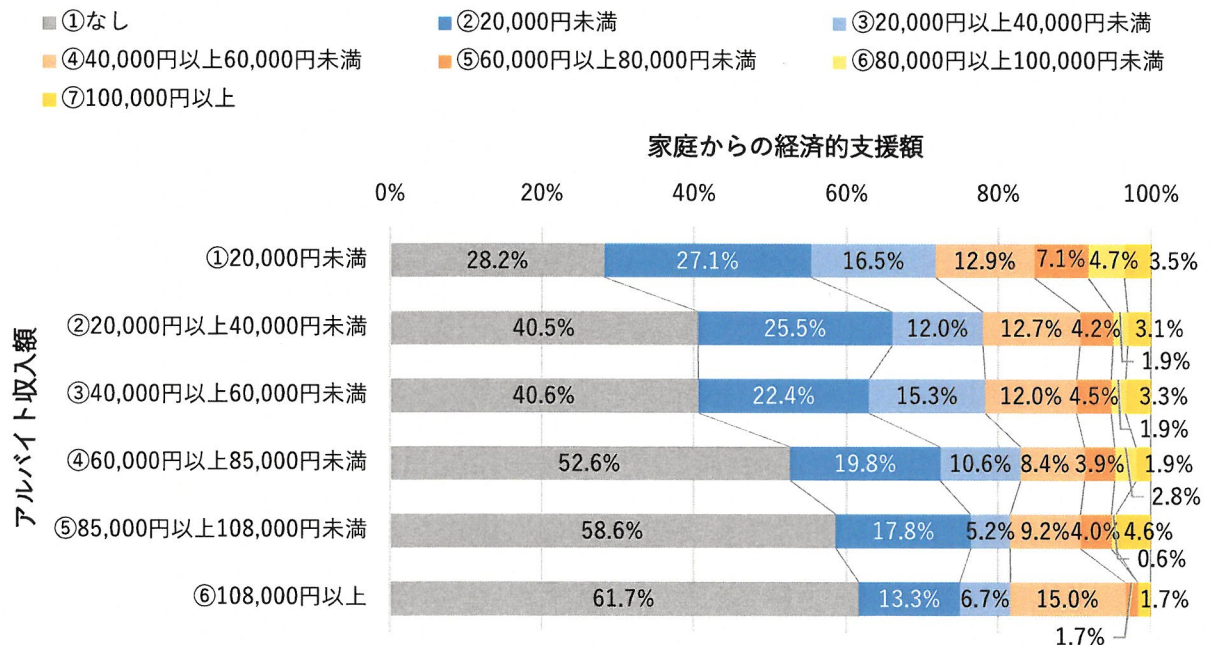
Q 7. 一カ月平均のアルバイト収入額

月平均 8 万 5000 円未満のアルバイト収入の学生（全体の約 80%）は、全額を手取りとして得ていると考えられる。一方、月収 8 万 5000 円以上 10 万 8000 円未満の学生（11.5%）は、年間収入「103 万円の壁」を超える可能性が高く、保護者の特別扶養控除から外れるだけでなく、確定申告で勤労学生控除を申請しない限り所得税がかかる。さらに、月収 10 万 8000 円を超える状態が続けば「130 万円の壁」を上回り、所得税（及び住民税）負担に加え、社会保険への加入義務も発生する。月収 8 万 5000 円以上の学生の約 60%が家族から経済的援助（Q4）を受けていないことから、収入と税金・社会保険の負担の関係について、十分な知識を持つことが重要である。

アルバイトの
平均収入額



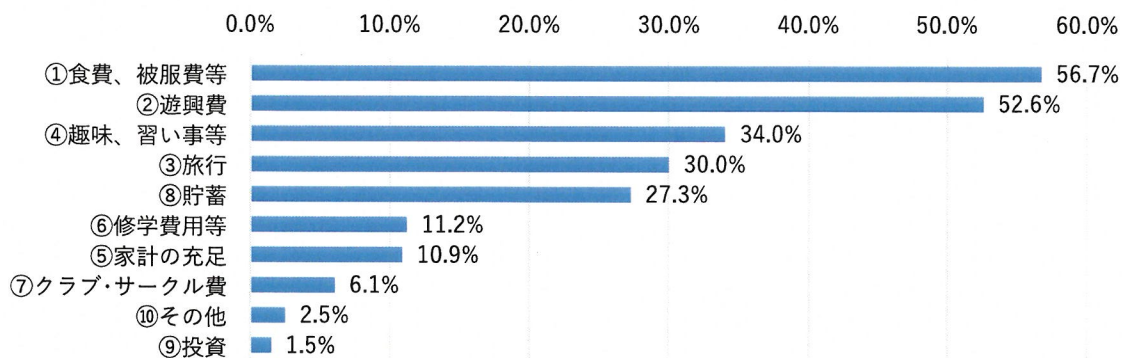
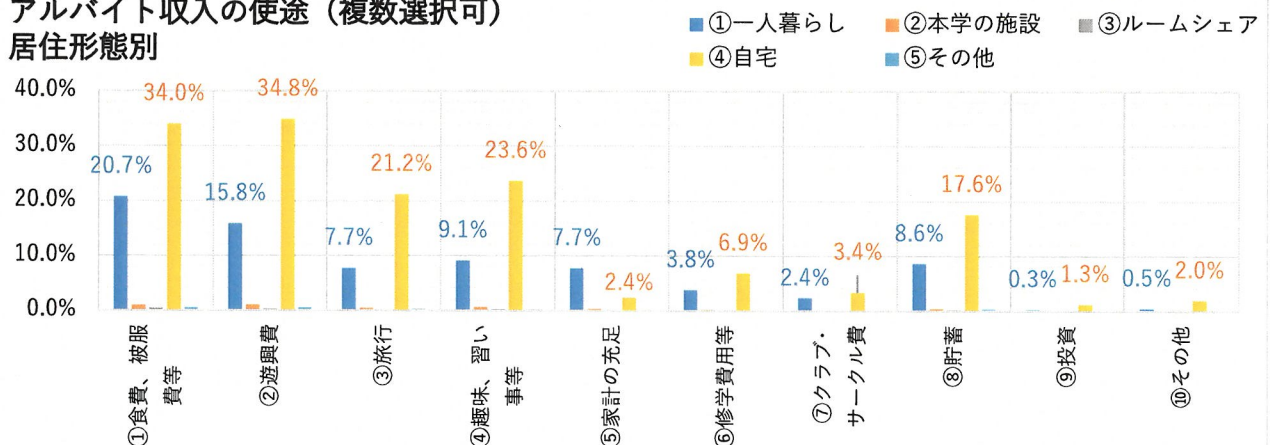
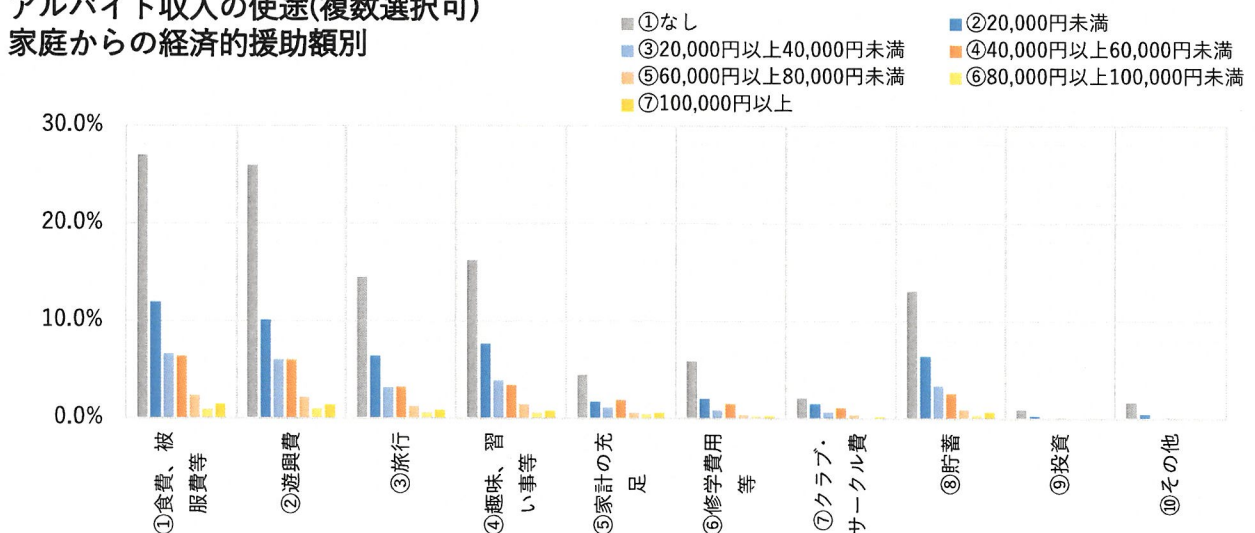
アルバイトの平均収入額 家庭からの経済的支援額別



Q 8. アルバイトで得た収入の使途（複数選択可）

調査結果から、学生がアルバイト収入を主に生活費（食費・被服費）や遊興費に使う傾向が浮き彫りになった。約 3 割の学生が収入を趣味や旅行に充てている一方で、貯蓄や投資に回す学生も一定数おり、将来への備えを意識している姿勢も見られる。居住形態（Q1）との関連を見ると、自宅暮らしの学生は一人暮らしの学生に比べて、遊興費、旅行、趣味等を使う割合が高く、家計の充足を用途とする割合は非常に低い。また、家族からの経済的援助（Q4）が多くなるにつれて、生活費、遊興費、旅行、趣味、貯蓄を用途とする割合が低下する傾向も見られた。

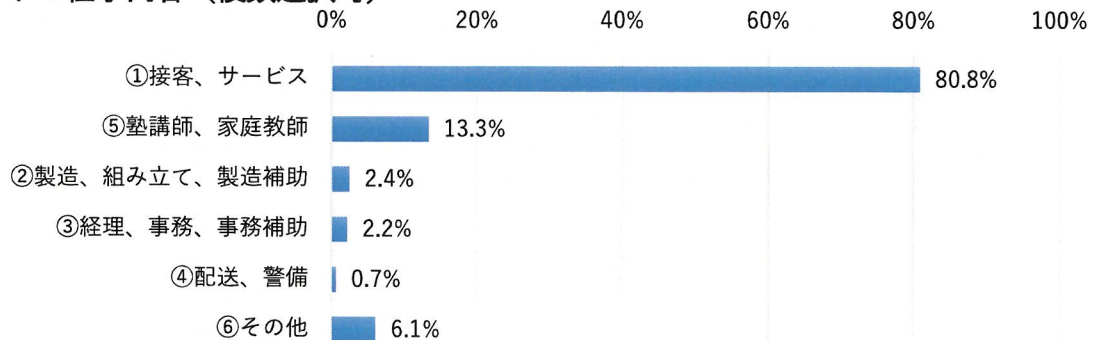
アルバイト収入の使途（複数選択可）

アルバイト収入の使途（複数選択可）
居住形態別アルバイト収入の使途（複数選択可）
家庭からの経済的援助額別

Q 9. アルバイトの仕事内容（複数選択可）

アルバイトが接客・サービス業務に圧倒的に集中している点は、就職希望先として比較的志向の高い業界と一致している。一方で、時給が相対的に高く、学業で培った知識を活かせるにもかかわらず、塾講師や家庭教師として働く学生は、比較的少数にとどまっている。

アルバイトの仕事内容（複数選択可）



Q 10. アルバイトの探し方（複数選択可）

アルバイト探しで最も利用されているのは、求人情報サイトである。理由として、求人情報の網羅性と時間や場所に縛られずに手軽に検索できる利便性の高さが挙げられる。次いで、先輩や友人からの紹介を受ける学生が多く、信頼できる人物からの推薦という点で安心感があると思われる。大学公認の求人サイトの利用率が低い点については、その要因をもう少し掘り下げて検証することが必要である。また、SNSの利用率は低いものの、闇バイトに巻き込まれるリスクが高く、報酬が異常に高額な仕事や、不必要な個人情報を要求する仕事には注意して行動するよう、あらゆる機会を通じて注意喚起を行わなければならない。

アルバイトの探し方（複数選択可）

